

書写



宮 絢子

元東京家政大学准教授

2020年度版「みんなと学ぶ
小学校書写」編集委員

書写教科書の 不易と流行

はじめに

新教育課程の完全実施2020年度は目前となった。

このたびの学習指導要領の改訂の方向性として、

①何ができるようになるか。

②何を学ぶか。

③どのように学ぶか。

という3本柱が示された。今更の感は否めない。なぜならば、この3本柱は学図『書写』の教科書編修の基本中の基本の考え方として毎回の教科書作成を行ってきた歴史がある。「自学・自習につながる教室での学び」の在り方を具現した教科書は、上記3本柱を追究したものに他ならない。そのことをもとに、2020年版教科書の不易と流行について紹介する。

1. 「自学・自習」につながる学びの充実を目指した工夫

何を学ぶのか。それは、生活に生きて働く力となるものを教科書を通して学ぶのである。そのために単元は3つのステップから構成されている。

(1) たしかめて書こう (課題発見の場合)

(2) 考えて書こう (課題解決の場合)

(3) 生かして書こう (身に付け、生かす場)

(図1: 1年 p.10-11 「とめ、はね、はらいにきをつけてかきましょう。」)

この単元構成は、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力を養うよう指導し～(現行学習指導要領指導計画の作成と内容の取扱いより)」を受け、平成26年版まで第3学年以上に位置づけられてきた『毛筆学習のすすめ方』がもとになっている。

新学習指導要領では、「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」と明記されたことを受け、第1学年第2学年にも『学習のすすめ方』を位置づけた。

学習にあたり、それぞれのステップには次のようなスモールステップが用意されている。

(1) 「たしかめて書こう」の中

①学習のねらいをつかむ ②書いてみる

(2) 「考えて書こう」の中

①どこが課題か考える ひとりで・みんなで

②課題解決に向けた練習とまとめ書きをする

(3) 「生かして書こう」の中

①学習の成果を確認する ②他の文字を書いてみる

③普段の生活に生かしていく

又、1, 2, 3のステップを分りやすくするために、ポイントを押



図 1：1年 p.10-11
「とめ、はね、はらいにきをつけてかきましょう。」



図 2：5年 p.47
「かたかなはどうやって生まれたの？」



図 3：3年③
「はがき・原こう用紙・手紙の書き方」

さえた会話をする児童のイラストや的確な助言をする先生のイラストを使い、「かきかたのカギ」では学習する児童に考えるヒントを提供している。

更に、書きたいとき・興味を持ったときに書くことの重要性や、今すぐに書いて身につけることの必要性を踏まえ、教科書に「なぞる」・「書き込む」ページをたくさん用意している。

これらの構成は、児童が書写学習の意義を理解し、学び方を学び、自学の精神を育む工夫がある教科書構成といえる。

2. 児童の興味・関心をくすぐる工夫「なぜ？なに？書写の不思議」(第2学年～第5学年)

情報化真っ盛りの時代になり、児童はコンピュータをはじめとしあらゆる情報源を通して断片的な知識を持つようになってきている。また、興味や関心を示す対象には個人差が広がっているように感じられる。

今回の学習指導要領で「書写」は「我が国の言語文化に関する事項」に位置づけられたことを受け、教科書では文字や書字に関わる内容を整理して児童に提示した。それらは、日本の伝統文化に対する理解を深めさせ、更に日本の伝統文化に対する興味や関心を持つ多くの児童が育つことを期待している。

(図 2：5年 p.47「かたかなはどうやって生まれたの？」)

3. 書写力の定着のための工夫「書写の資料館」(第1学年～第6学年)

書写力の定着のためには「繰り返し」が大切である。「繰り返し書く」「繰り返し理解する」ことができるように設定した内容がある。

- ①すべての学年に用意したもの「ひらがな・かたかなの表」
- ②日常化と関連したもの「はがき・原稿用紙・手紙の書き方」(第3学年～第6学年)
「読みやすく書く」(第4学年～第6学年)
- ③水書用筆の扱い(第1・2学年)

新たに導入される水書用筆について、導入のねらいが児童にもよくわかるように説明されている。

日ごろの書写学習時の参考として活用できる資料が、各学年にたくさん用意されている。これらも児童の書写力の定着のために役立つものである。

(図 3：3年③「はがき・原こう用紙・手紙の書き方」)

4. 原寸大の教材文字を増やす

第1・2学年教科書の記入用マス目の大きさは、小学校で児童が使用している標準的な大きさとした。

又、新学習指導要領の「我が国の伝統文化である『書き初め』に取り組むことなどを通して、～(内容の取扱い)」を受け、書き初め教材を充実させるべく、毛筆書き初めの教材を近年普及している書き初め用紙の大きさとし、教師にも児童にも理解しやすい物とした。なお、毛筆見開きの教材は半紙大であり、永年の不易のページである。

おわりに

教科書を開く児童にも指導にあたる教師にも、学習指導要領改訂の方向を示す事項であり学校図書の教科書編修の基本的考え方である

①何ができるようになるか ②何を学ぶか ③どのように学ぶか
がよく分かる教科書として出来上がったことを記しておく。



みんなと学ぶ 小学校書写



特色①

主体的・対話的で 深い学び

書写学習プロセス「学習の進め方」を、自学自習だけでなく、他者との話し合いを通して学びを深められるように改訂しました。

また「学習の進め方」に則り、3段階の「書く」活動で単元を構成しました。

①「確かめて書こう」

学習目標を確かめ（何を学ぶか）、試し書きをする。

②「考えて書こう」

自分の書字の課題を見つけ、話し合いや練習を通して（どのように学ぶか）、まとめ書きをする。

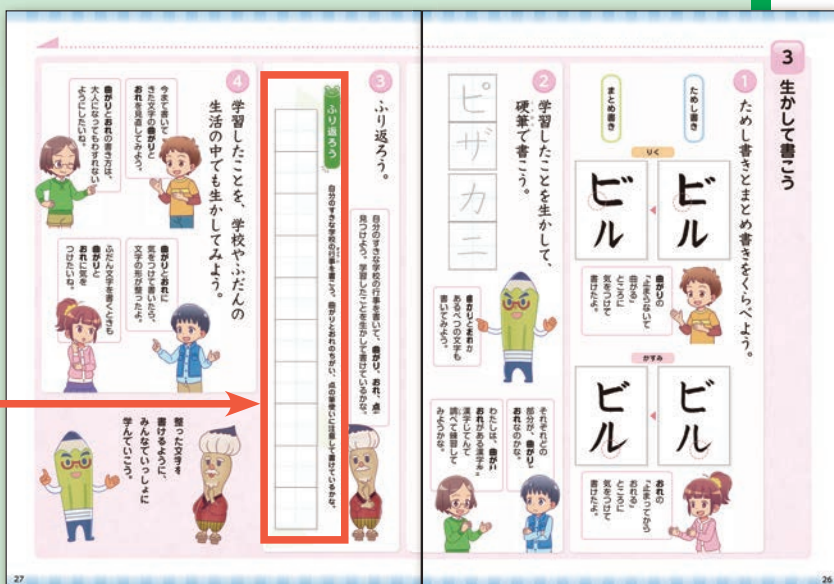
③「生かして書こう」

課題の達成を確認し、硬筆で書いて振り返る（何ができるようになったか）。学習したことを日常生活の場で生かす。

最後の振り返りでは、実際に書き込んで確かめることで、技能の習得をより実感できるようになりました。



↑ 3年 p24 ~ 25



↑ 3年 p26 ~ 27

「すべての子供たちに、自ら文字を書いて学ぶ喜びを」

「主体的・対話的で深い」書写学習を意識し、「書く」ことを重視した教科書構成にしました。

特色②

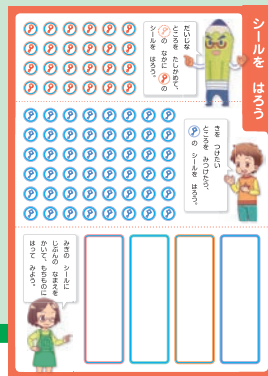
技能習得のための「見方・考え方」

「書けるようになるための見方・考え方」として、課題の達成に必要な書字のポイント「書き方のカギ」を設定しました。

- ・自学自習や、話し合いの際に確認することで、学びが効率的に深められます。
- ・低学年は「かきかたのカギ」シールを活用することで、発見する楽しさを通して学習意欲を高められます。



↑ 4年 p16 ~ 17



← 1年「かきかたのカギ」シール

その他

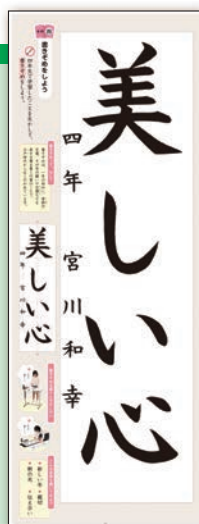
書写の学びを深めるために

○使いやすい原寸大教材

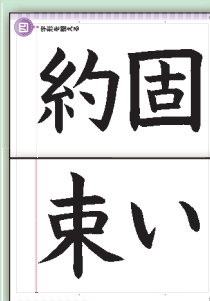
毛筆、硬筆教材ともに、児童が使う半紙やノートのマスの大きさにあわせて掲載し、扱いやすさに配慮しました。

○豊富な書き込み欄

書き込み欄を豊富に設けることで、書写学習に必要な不可欠な「書く」活動の充実を図りました。



↑ 4年折り込み①



↑ 6年 p24 ~ 25



↑ 2年 p10 ~ 11